



佐賀大学教職大学院 院生ライフレポート



2021年
11月号



後学期開講から早二ヶ月が経ちました

11月に入り、肌に触れる風もだんだんと冷たくなってきました。また、日が暮れるのが一段と早くなり、昼夜の寒暖差から少しずつ冬の訪れを感じるようになりました。

後学期に入り、各コースでより専門分野に特化した講義が増え、教職大学院修士課程1年生全員が集まって受講する講義は少なくなりました。今号のライフレポートでは、後学期で唯一の共通科目である「教育相談・学校カウンセリングの基礎と課題」の様子を紹介したいと思います。

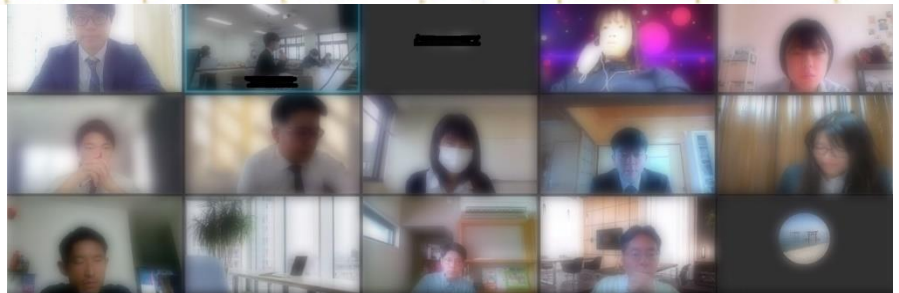
「教育相談・学校カウンセリングの基礎と課題」は、下田先生と小松原先生による授業です。授業内容は二人の先生による講義と、グループでのディスカッションの二部構成となっています。グループディスカッションでは、校種が異なる院生同士で、教育相談に関する課題や、校種ごとに提示されている課題図書の内容発表などを行っています。学校カウンセリングに関する知識や、現職院生の豊かな経験を知ることができ、とても有意義な時間となっています。また、唯一全員が集まる講義であるため、どのグループも活気にあふれ、議論も盛り上がっています。



授業以外の部分でも、前学期に比べて、院生研究室でのコースの垣根を超えた意見交換が活発になっています。今後も、先生方からのご指導や授業での学びや院生からの意見を参考にしながら、さらに学びを深めていきたいと思っています。



先輩方の発表会への参加



↑研究成果発表会にオンライン上で参加している様子

授業実践探究コース専攻の教職大学院修士課程1年生は、オンライン会議機能を利用して、11月に開催された「令和3年度授業実践探究コース2年次探究成果発表会」に参加しました。修士課程2年生の先輩の素晴らしいご発表を聞き、自分たちが1年後に目指すべき姿を明確にすることができました。この間、研究の進め方で悩む部分もありましたが、発表の中で紹介された様々な理論や発表資料を参考に、新たな視点を発見することができました。年末まで残すところわずかとなりましたが、これからも一層研究に励んでいきます。

編集者 I&S